

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号：12613

研究種目：若手研究 (A)

研究期間：2008～2010

課題番号：20683003

研究課題名 (和文) 経済格差の実証的把握と政策的な対応

研究課題名 (英文) Empirical Analysis of Income Distribution and Evaluation of Income Redistribution Policy

研究代表者

川口 大司 (KAWAGUCHI DAIJI)

一橋大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号：80346139

研究分野：社会科学・労働経済学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：経済政策, 経済統計学

1. 研究計画の概要

この研究では、日本における所得格差・賃金格差について以下の観点から分析を行う。

1. 所得格差・賃金格差の現状ならびに近年の推移の把握ならびに国際比較
2. 所得格差・賃金格差の推移に関する経済学的説明
3. 所得格差・賃金格差是正のための政策的対応とその評価

以上の分析を総合して、所得格差ならびに賃金格差是正のために望ましい経済政策を包括的な観点から提案する。

2. 研究の進捗状況

過去 20 年間にわたる賃金格差の動向については Kambayashi, Kawaguchi and Yokoyama (2008) としてまとめられている。この研究では賃金構造基本調査の個票を用いて、日本における賃金格差の時系列的な動向を記述し、その変動要因を、労働者の構成変化、労働者の属性 (学歴・経験年数・勤続年数など) 間の賃金格差、同一の労働者の属性グループ内の賃金格差に分解した。分析の結果、日本の賃金分布はおおよそ安定的に推移していることが分かった。その中で、労働は属性間の賃金格差、特に学歴間の賃金格差が縮小したものの、勤続年数の長い女性が増えてきたことなどによって、女性の中での賃金格差が拡大していることなどが分かった。また、同一学歴・同一経験年数など同一の属性を持つ労働者の中での賃金格差が拡大する傾向にあることも明らかになった。安定的に推移する賃金分布の裏側で、様々な賃金分布の変化が起こっていることを発見したことがこの論文の貢献である。

Kambayashi, Kawaguchi and Yokoyama

(2008) で明らかにされた学歴間賃金格差の縮小の原因解明を目指し、賃金構造基本統計調査や労働力調査のマイクロデータを用いて現在研究を進めているところである。

また、賃金分布に影響を与えようとする政策として代表的な政策は最低賃金政策であるが、Kawaguchi and Mori (2009) でその評価を行っている。その結果、最低賃金は賃金分布を圧縮する効果を持つものの、最低賃金労働者には主婦パートや学生アルバイトが多く含まれ必ずしも貧困世帯の構成員とは言えないこと、雇用を減らしてしまう副作用があること、が分かった。総合的にいって最低賃金は貧困対策としては適切でない可能性が示されたといえる。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由) 問題意識を共有し、高い分析能力を有する研究協力者を得ることで、研究を効率的に進めることができた。さらに、活発な議論を行うことでより深い考察を経た高い質の研究を行うことができたと感じている。当初計画していた研究はほぼすべて終了しており、賃金格差の変動を需要供給のフレームワークを用いて説明する作業を取りまとめる部分を残すのみとなっている。この作業についても短期間のうちに終了できるめどがすでに付いている。

4. 今後の研究の推進方策

賃金格差の変動を需要供給のフレームワークを用いて説明する研究を平成 23 年度の早い段階で取りまとめる。そのうえで各研究の間のつながりを整理し、総論を取りまとめ、今後の研究課題を整理する。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

- ① Daiji Kawaguchi (2011) “Actual Age at School Entry, Educational Outcomes, and Earnings,” *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25, No. 2, pp. 64-80. 査読あり
- ② Daiji Kawaguchi and Yuko Mori (2009) “Is Minimum Wage an Effective Anti-Poverty Policy in Japan?” *Pacific Economic Review*, Vol. 14, No. 4, pp. 532-554. 査読あり
- ③ Daiji Kawaguchi and Junko Miyazaki (2009) “Working Mothers and Sons’ Preferences regarding Female Labor Supply: Direct Evidence from Stated Preferences,” *Journal of Population Economics*, Vol. 22, No. 1, pp. 115-130. 査読あり
- ④ Hiromi Hara and Daiji Kawaguchi (2008) “Union Wage Effect in Japan,” *Industrial Relations*, Vol. 47, No. 4, pp. 569-590. 査読あり
- ⑤ Ryo Kambayashi, Daiji Kawaguchi and Izumi Yokoyama (2008) “Wage Distribution in Japan: 1989-2003,” *Canadian Journal of Economics*, Vol. 41, No. 4, pp. 1329-1350. 査読あり

[学会発表] (計 13 件)

- ① Daiji Kawaguchi, “Trends in Long-Term Employment in Japan” Trans-pacific Meeting of Labor Seminar, Santa Barbara, U. S. A., 12 March 2010
- ② Daiji Kawaguchi, “Minimum Wage in Deflationary Economy: Experience of Japan 1994-2003,” Japan-UNSW Applied

Microeconomics Workshop, Sydney, Australia, 20 August 2009

- ③ Daiji Kawaguchi, “The Minimum Wage in a Deflationary Economy: Japanese Experience 1994-2003,” 2009 Summer Economic Conference, Seoul, Korea, 12 August 2009
- ④ Daiji Kawaguchi, “Labor Market Responses to Legal Work Hour Reduction: Evidence from Japan,” 8th IZA/SOLE Transatlantic Meeting of Labor Economists, Munich, Germany, 29 May 2009
- ⑤ Daiji Kawaguchi, “Stable Wage Distribution in Japan, 1982-2002: A Counter Example of SBTC?” Inequality and Poverty in the Global Economy, Mannheim, Germany, 27 March 2009

[図書] (計 5 件)

- ① 神林龍・川口大司 北村行伸 編, 日本評論社『応用ミクロ計量経済学』(2010), pp131-160
- ② 中村二郎・内藤久裕・神林龍・川口大司・町北朋洋, 日本経済新聞社『日本の外国人労働力』(2009), pp. 294
- ③ 川口大司, 大橋勇雄編, ミネルヴァ書房『労働需要の経済学』(2009), pp. 263-291